

都有施設におけるV P Pの構築事業 —「電力融通の見える化」について—

お知らせ

2026年3月30日

東京電力ホールディングス株式会社

当社は、東京都と連携し、都有施設におけるV P P^{*1}構築事業（以下、「本事業」）を進めています。本事業では、電力の使い方等が多様な都有施設に太陽光発電設備や蓄電池を設置し、これらを束ねたエリアエネルギーマネジメントを行うことで、再エネ電力の最大限の有効活用に取り組んでいます。

2024年11月1日からは、都有施設で発電した再生可能エネルギーを他の都有施設に供給する先行実証^{*2}を開始し、エリアエネルギーマネジメントシステム^{*3}の有用性と運用等の確実性を検討してきました。

このたび、本事業の一環として、スマートメーター等から得られるデータを活用し、都有施設間の電力融通の状況を見える化する『都有施設におけるV P P見晴らしマップ（以下、「本マップ」）』を、東京都のホームページにて、本日より公開しましたのでお知らせします。（URL：<https://www.tokyo-vpp.metro.tokyo.lg.jp>）

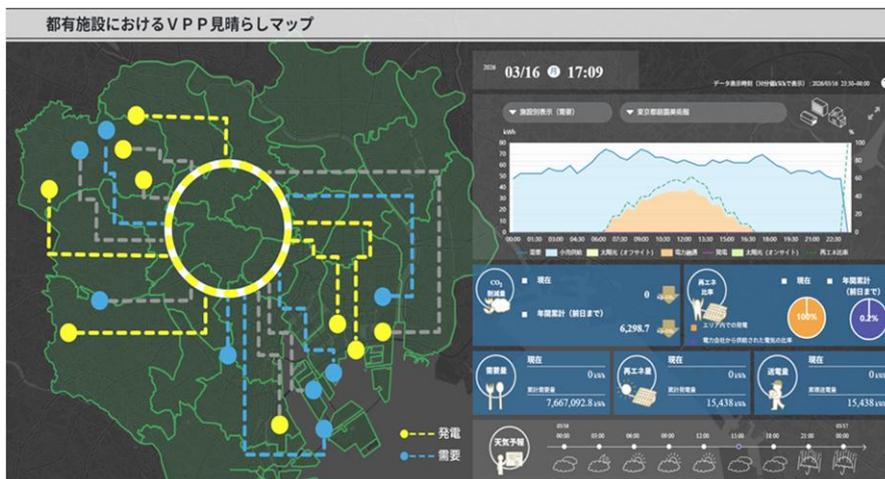
【公開内容】

気象データや過去実績データ等をもとにした高精度な発電・需要予測により、再エネ電力が不足する施設と余剰となる施設をマッチングし、都有施設で発電した再エネ電力を無駄なく使い切るための実証を行っています。

本マップでは、対象施設^{*4}における以下の電力需給実績を30分毎に更新・公開します。

- (1) 各発電施設の再エネ発電量
- (2) 各需要施設の需要電力量
- (3) 各発電・需要施設間の送電量
- (4) 小売供給(買電)量 他

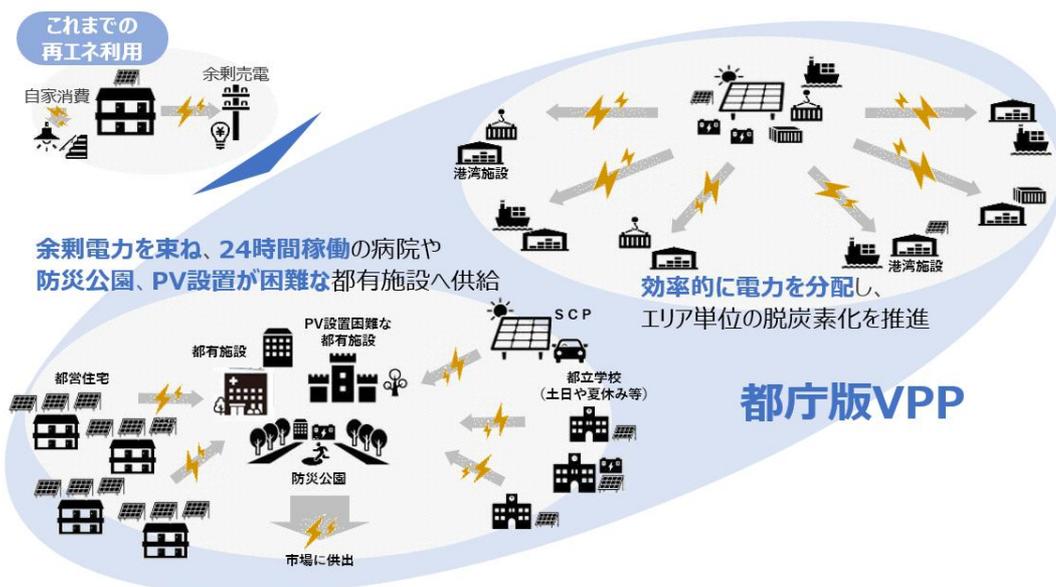
<都有施設におけるV P P見晴らしマップ イメージ図>



当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向け、自治体等との協働のもと、地域の再生可能エネルギーを最大限活用したエネルギーシステムを構築しており、本マップの公開等により、カーボンニュートラルに向けた取り組みの理解促進・意識醸成に寄与してまいります。

- ※1 V P P（バーチャルパワープラント）：
太陽光発電設備や蓄電池、電気自動車等の分散型エネルギーリソースを統合的に制御することで、発電所のような電力創出・調整機能が仮想的に構成されたもの
- ※2 [東京都施設におけるV P P構築事業の先行実証開始について（2024年11月1日お知らせ）](#)
- ※3 エリアエネルギーマネジメントシステム：
エリアにおいて発電した再エネ電力と電気を使用する複数施設のエネルギーの一体運用を行うシステム
- ※4 対象施設
(取込済)
都営千歳台一丁目アパート（4棟）、都営旭町二丁目第5アパート（1棟）、都営石神井町二丁目第3アパート（6棟）、都立東部療育センター、光が丘公園、夢の島公園、高潮辰巳管理宿舎、東京都庭園美術館、10号ふ頭4～6号上屋、中央防波堤内側ばら物ふ頭上屋、10号ふ頭西上屋
(今後取込予定)
大井ふ頭内用地、辰巳ふ頭内貿雑貨上屋、都立田柄高等学校、都立練馬高等学校、都立千歳丘高等学校、都立練馬特別支援学校、東京国際クルーズターミナル

<参考 都営施設におけるV P Pのイメージ>



以上